

大廣

おおひろ・なつこ

奈津子さん



大廣奈津子さんは、一昨年に歌好きの有志4人で歌謡団体《千歳ゆきなよ会（代表・畑山庸一さん）》を結成し、自ら歌の練習を重ね、個人的な活動としても、高齢者や障がいのある方の施設・病院など、市内外を問わず、10回以上の施設慰問を続けてきました。

最近では、3人の子との生活を大切にしながら、今年2月からの起業や資格取得に向けた勉強などで忙しい日々を過ごしていますが、9月30日に北ガス文化ホールで開催される《夢の歌謡フェスティバル》への出演に臨む大廣さんに、歌や活動に対する思いを聞きました。

●歌の慰問活動を始めた理由は？

「歌謡曲が好きで以前から歌を習っていたのですが、団体での活動を機に、同じく歌を続けていた母の施設

慰問に同行したときのことです。

一緒に同行した知人の歌を聴いた施設の方が、昔を思い出して涙を流していました。私は6歳のころから《日本舞踊》を習ってきたのですが、感情を込めた歌声が人の心を動かす場面を目の前にして、自分の表現力はまだまだだと思ひ知りました。

以来、《自己研さん》のために、慰問活動を通じて人前で歌うことを始めたのです。」

●活動を通じて得たものは？

「もともとJポップから始めたので、人（日本人）の心をつかむ《演歌》を歌いこなすには未だに半人前です。それでも、心に障がいのある方の施設慰問で演歌を披露したとき、歌い終え、ステージを降りたところで駆け寄ってきた方が、満面の笑みで私の手をギュッと握ってくれ

歌の慰問活動などを通じ、自己研さんに励む理由

「団体と若い方を結ぶ、《橋渡し》になれたらと思っています。」



たのです。心を込めて歌ったことがその方の心にストレートに届いたのだと思い、達成感が満たされました。最近はずいぶん、歌の慰問活動や練習ができていませんが、歌は《年齢や障がいの壁を越えて、人と人を結ぶもの》ですので、今後も精進したいと思っています。」

●日々の忙しさの中、《千歳市母子会》の活動にも精力的と聞いています。

「辛いとき、歌は私を支えてくれましたが、《母子会》への入会は、子育てや生活上のことなど、本当に多くの助けになりました。現在は理事として、母子会の書類づくりや調整ごとなど、事務的なことを担っています。

しかし残念なことに、助けを必要としている若い母子の方が、母子会に入っていない現状があります。

市内で複数ある歌謡団体も同じです。とにかく若い世代が団体に入っていないまま、どんどん高齢化が進んでいるのです。

その理由としては、私たちの側も団体活動の魅力を十分に発信できていないのではないかと考えています。歌も団体活動も若輩者の私が言うのはおこがましいですが、団体と若い方を結ぶ、《橋渡し》になれたらと心から願っています。

人との結びつきから得られるものが、どんなに自分の支えになるかを伝えていきたいですね。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

9月の歌謡フェスティバルでは、生演奏を背に往年のバラードに挑戦する予定の大廣さん。人同士の結びつきの大切さを信じ、心の奥から繰り出される歌声が今から楽しみです。

プロフィール

■大廣 奈津子（おおひろ なつこ）さん／富士在住／歌謡団体《千歳ゆきなよ会》に所属し、個人的に市内外の高齢者施設、障がい者施設や病院などを慰問する活動を続けている。最近では、3人の子のシングルマザーとして、千歳市母子会の活動にも熱心に取り組む。